

# ことばの発達、日本語と英語で何が違う？

～言語間比較で見てきた親の発話とこどもの語彙獲得の関係～

## どんな研究

1才半ごろ、日本語児は英語児に比べて発話できる語彙数が非常に少ないのですが、新しい語の学習は早期から正確にできる能力を身につけていることがわかってきました。言語間の違いに注目しながら、**親の発話スタイルなどのインタラクション解析**を行うことで、言語習得メカニズムの解明を目指しています。

## どこが凄い

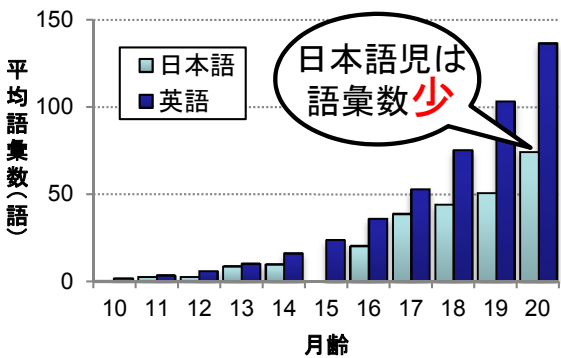
母親の発話スタイルを解析すると、日本の親は英語の親に比べて**育児語**などの使用により、多様な語を使用する傾向が強いことがわかってきました。こうした物体や動作に対する**一貫性の低い発話スタイル**が、こどもの語の獲得や定着に影響を与え、発話できる語彙数の少なさと強く関連している可能性が示唆されます。

## 目指す未来

こどもの語彙獲得に与える親の発話スタイルの影響が明らかになれば、**コミュニケーション能力の発達を支援**する効果的な方法を導き出すことが可能です。こうした方法を、ペアレント・トレーニングなどに応用することにより、育児や教育をサポートするコミュニケーション環境の指針を提案していきます。

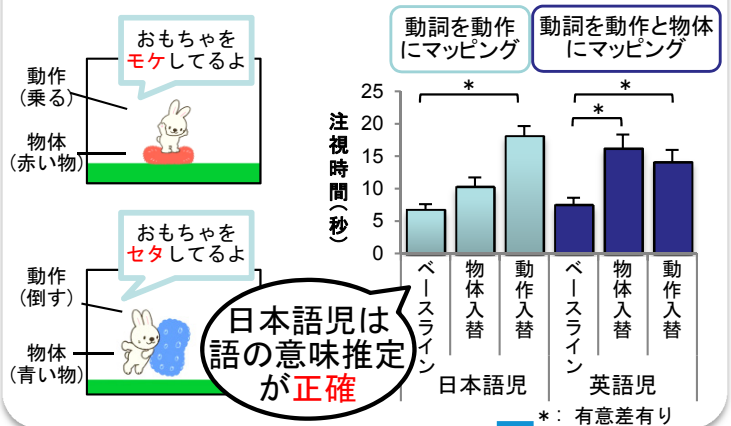
### ■ 発話できる語彙数

- 親による語彙チェックリストに基づき、英語児と日本語児の語彙数を比較



### ■ 語の学習

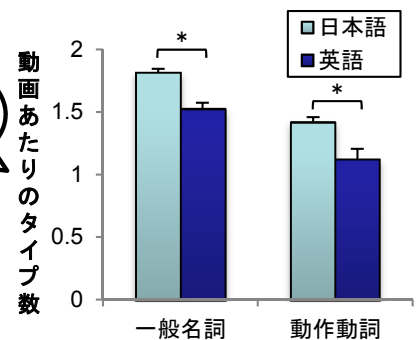
- 初めて聞く新奇な動詞を提示した時、物体でなく動作にマッピングできるかを、注視時間を指標として判定(20ヶ月児)



## 日本語児は語の意味推定が正確なのに発話できる語彙数が少ないのはなぜ？

### ■ 親の発話スタイル

- 日英の20ヶ月齢の母親がこどもに動画の内容を説明
- 母親の発話を書き起こし、普通名詞と動作動詞に分類し解析



## 日英比較から親の発話スタイルとこどもの語彙獲得が関連

### 【関連文献】

- [1] Y. Okumura, Y. Oshima-Takane, T. Kobayashi, M. Ma, Y. Kayama, "Japanese children comprehend null object sentences earlier than pronominal object sentences," in *Proc. ICIS*, 2016.
- [2] Y. Oshima-Takane, T. Kobayashi, "Learning novel transitive verbs in Japanese-, French- and English-speaking infants: a cross-linguistic study," in *Proc. IASCL*, 2014.
- [3] T. Kobayashi, Y. Oshima-Takane, "How mothers describe dynamic action events to 20-month-old-children," in *Proc. ICP*, 2016.

### 【連絡先】

奥村 優子 (Yuko Okumura) 協創情報研究部 インタラクション対話研究グループ  
E-mail : okumura.yuko(at)lab.ntt.co.jp